



2019年5月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2018年9月28日

上場会社名 日本プロセス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 9651 URL <https://www.ipd.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 上石 芳昭
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 財務統括 (氏名) 坂巻 詳浩 TEL 03-5408-3351
 四半期報告書提出予定日 2018年10月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年5月期第1四半期の連結業績（2018年6月1日～2018年8月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年5月期第1四半期	1,479	6.5	123	△8.7	143	△3.4	124	209.8
2018年5月期第1四半期	1,388	22.7	134	539.1	148	325.5	40	91.8

(注) 包括利益 2019年5月期第1四半期 206百万円 (-%) 2018年5月期第1四半期 12百万円 (△86.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年5月期第1四半期	12.82	—
2018年5月期第1四半期	4.09	—

(注) 当社は、2017年12月1日を効力発生日として普通株式1株につき普通株式2株の割合で株式分割を行っており、1株当たり四半期純利益は、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年5月期第1四半期	9,429	8,638	91.6
2018年5月期	10,066	8,514	84.6

(参考) 自己資本 2019年5月期第1四半期 8,638百万円 2018年5月期 8,514百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年5月期	—	20.00	—	10.00	—
2019年5月期	—	—	—	—	—
2019年5月期（予想）	—	10.00	—	10.00	20.00

(注1) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

(注2) 当社は、2017年12月1日を効力発生日として普通株式1株につき普通株式2株の割合で株式分割を行っており、2018年5月期の第2四半期末以前の配当については、当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。

3. 2019年5月期の連結業績予想（2018年6月1日～2019年5月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	3,200	7.1	230	△28.2	250	△26.9	198	17.2	20.24
通期	6,690	6.4	460	△10.3	500	△13.7	360	14.6	36.70

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年5月期1Q	10,645,020株	2018年5月期	10,645,020株
② 期末自己株式数	2019年5月期1Q	823,034株	2018年5月期	818,103株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年5月期1Q	9,730,150株	2018年5月期1Q	9,845,020株

(注) 当社は、2017年12月1日を効力発生日として普通株式1株につき普通株式2株の割合で株式分割を行っており、発行済株式数（普通株式）は、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(注) 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	7
(追加情報)	7
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善が続く中、企業収益の改善と設備投資の増加を背景に緩やかな回復基調が続いたものの、海外経済の不確実性の高まりや金融資本市場の変動の影響など先行きが不透明な状態が継続しました。

情報サービス産業におきましては、IoT、AI（人工知能）、ビッグデータなどの急速な進化に伴い、自動運転をはじめ様々な分野でのICT（情報通信技術）の活用が進む一方、サイバー攻撃などへの防御としてセキュリティ技術の高度化も求められています。

こうした環境の中、当社は、「ソフトウェアで社会インフラ分野の安全・安心、快適・便利に貢献する」を中期経営ビジョンとする新たな中期経営計画（2018年6月～2021年5月）を策定し、獲得事業の主力化と新分野の開拓、持続的成長への投資、トータル・ソフトウェア・エンジニアリング・サービスの継続、を基本方針としました。

具体的には、獲得事業の主力化と新分野の開拓としては、前中計期間中に大きく拡大した自動運転/先進運転支援関連を主力事業として確立するとともに、建設機械や医療関連のIoT分野の拡大を図っていきます。また、AI、ネットワーク、セキュリティ、クラウドなど更なる新分野の開拓にも注力していきます。持続的成長への投資としては、人材への投資、働きやすい環境や生産設備への投資などに、積極的な投資を行っていきます。トータル・ソフトウェア・エンジニアリング・サービスの継続としては、ソフトウェアの要件定義、開発から運用・保守までをトータルにサービスすることで、顧客に最大のメリットを提供するという取組みを、顧客を巻き込んだ長期的な取組みとして継続してまいります。

経営成績につきましては、自動車システムと組込システムが前年からの好調を維持するとともに、ITサービスが堅調に推移したことで、売上は前年を上回りました。一方、制御システムと特定情報システムの一部の請負案件が第2四半期以降に検収されることなどから、利益につきましては前年を下回りました。

この結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は1,479百万円（前年同期比6.5%増）、営業利益は123百万円（前年同期比8.7%減）、経常利益は143百万円（前年同期比3.4%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は124百万円（前年同期比209.8%増）となりました。なお、株式会社アルゴリズム研究所を2018年6月に子会社化したことに伴い、負ののれん30百万円を特別利益として計上しております。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

(制御システム)

制御システムでは、エネルギー関連は、火力発電所向け監視・制御システムの作業量が減少傾向であるものの、プラント制御と配電自動化で作業量が増加したことで、売上、利益とも横ばいで推移しました。

交通関連は、新幹線の運行管理システムでリプレース案件が立ち上がるなど堅調に推移しました。一方、在来線の運行管理システムでは作業量が多い状況が継続しているものの検収が第2四半期以降になるため、売上、利益とも前年を下回りました。

この結果、制御システムの売上高は197百万円（前年同期比33.5%減）、セグメント利益は40百万円（前年同期比51.7%減）となりました。

(自動車システム)

自動車システムでは、車載制御システムのエンジン制御、変速機制御とも好調に推移するとともに、電動化案件で体制を拡大しました。また、自動運転/先進運転支援関連は旺盛な需要が継続し、車載ネットワーク制御や基盤ソフトウェアなどが好調に推移しました。

この結果、売上高は377百万円（前年同期比29.7%増）、セグメント利益は86百万円（前年同期比37.0%増）となりました。

(特定情報システム)

特定情報システムでは、危機管理関連は方式設計が堅調だったものの、大型請負案件の検収が第3四半期以降となるために微減となりました。また、地理情報関連は体制が縮小しましたが、自動運転/先進運転支援関連は道路標識の画像認識/識別案件で体制を拡大しました。

この結果、売上高は106百万円（前年同期比10.9%減）、セグメント利益は22百万円（前年同期比28.5%減）となりました。

(組込システム)

組込システムでは、ストレージデバイス開発は企業向けが好調に推移し、新ストレージの試作開発で担当範囲を拡大しました。医療関連は、薬剤分包機開発でファームウェアからミドルウェアやアプリケーション領域へと担当範囲を拡大するなど、堅調に推移しました。また、建設機械のIoT案件も、堅調に推移しました。

この結果、売上高は238百万円（前年同期比28.1%増）、セグメント利益は65百万円（前年同期比30.3%増）となりました。

(産業・公共システム)

産業・公共システムでは、駅務機器開発、ICカード開発、鉄道子会社向けのエンジニアリングサービスなどは、概ね横ばいで推移しましたが、航空/宇宙関連は、一部案件が保守フェーズに入ったことなどで体制を縮小しました。一方、注力分野としているAI関連は、新たな案件を受注するなど堅調に推移し、IoT関連はIoTセキュリティ案件で体制を拡大しました。

この結果、売上高は350百万円（前年同期比13.2%増）、セグメント利益は87百万円（前年同期比20.2%増）となりました。

(ITサービス)

ITサービスでは、構築業務は構成管理などの作業が増加し好調に推移しました。検証業務は戦略的に構築業務にシフトしていることから減少しました。保守・運用業務は、鉄道会社のセンターリプレース案件が好調に推移しました。

この結果、売上高は208百万円（前年同期比12.9%増）、セグメント利益は36百万円（前年同期比52.4%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(総資産)

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて636百万円減少して、9,429百万円となりました。この主な要因は、賞与支給及び納税に伴い現金及び預金が減少したことによります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べて761百万円減少して、790百万円となりました。この主な要因は、賞与支給及び納税が行われた結果、賞与引当金及び未払法人税等が減少したことによります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べて124百万円増加して、8,638百万円となりました。この主な要因は、投資有価証券の時価上昇に伴うその他有価証券評価差額金の増加と、子会社取得に伴い資本剰余金が増加したことによります。この結果、自己資本比率は、91.6%となりました。

なお、当第1四半期連結会計期間の期首から「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を適用しており、財政状態については遡及適用後の前連結会計年度末の数値で比較を行っております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

最近の動向を踏まえ、2018年7月6日に公表いたしました2019年5月期第2四半期連結累計期間の業績予想を修正いたしました。修正内容につきましては、本日別途公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年5月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2018年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,188,153	2,031,599
受取手形及び売掛金	1,107,087	1,194,312
電子記録債権	748,787	778,194
有価証券	100,110	100,000
仕掛品	165,984	316,680
その他	64,749	137,693
流動資産合計	5,374,872	4,558,480
固定資産		
有形固定資産	215,620	220,736
無形固定資産	12,879	14,571
投資その他の資産		
投資有価証券	4,066,731	4,280,797
その他	396,339	354,990
投資その他の資産合計	4,463,071	4,635,787
固定資産合計	4,691,571	4,871,095
資産合計	10,066,443	9,429,576
負債の部		
流動負債		
買掛金	99,571	107,990
未払法人税等	179,191	12,181
賞与引当金	798,330	207,995
その他の引当金	33,964	21,997
資産除去債務	11,950	—
その他	343,390	275,075
流動負債合計	1,466,397	625,241
固定負債		
引当金	85,275	22,298
退職給付に係る負債	—	40,701
その他	166	102,485
固定負債合計	85,441	165,485
負債合計	1,551,839	790,726
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,487,409	1,487,409
資本剰余金	2,174,175	2,241,777
利益剰余金	4,810,420	4,838,102
自己株式	△394,925	△445,633
株主資本合計	8,077,079	8,121,657
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	437,525	517,192
その他の包括利益累計額合計	437,525	517,192
純資産合計	8,514,604	8,638,849
負債純資産合計	10,066,443	9,429,576

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年6月1日 至 2017年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年6月1日 至 2018年8月31日)
売上高	1,388,946	1,479,422
売上原価	1,074,096	1,149,463
売上総利益	314,850	329,959
販売費及び一般管理費	179,886	206,767
営業利益	134,964	123,192
営業外収益		
受取利息	5,086	4,532
受取配当金	6,272	6,619
受取保険金	—	10,000
保険解約返戻金	3,006	886
その他	1,361	870
営業外収益合計	15,727	22,908
営業外費用		
支払手数料	—	537
寄付金	—	1,000
売上債権売却損	1,523	—
その他	300	751
営業外費用合計	1,823	2,289
経常利益	148,868	143,810
特別利益		
負ののれん発生益	—	30,602
特別利益合計	—	30,602
特別損失		
固定資産除却損	0	0
50周年記念事業費	84,971	—
特別損失合計	84,971	0
税金等調整前四半期純利益	63,896	174,413
法人税、住民税及び事業税	2,517	2,846
法人税等調整額	21,118	45,219
法人税等合計	23,636	48,066
四半期純利益	40,260	126,347
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	1,635
親会社株主に帰属する四半期純利益	40,260	124,711

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年6月1日 至 2017年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年6月1日 至 2018年8月31日)
四半期純利益	40,260	126,347
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△27,512	79,667
その他の包括利益合計	△27,512	79,667
四半期包括利益	12,748	206,014
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	12,748	204,378
非支配株主に係る四半期包括利益	—	1,635

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

該当事項はありません。

なお、特定子会社の異動には該当しておりませんが、当第1四半期連結会計期間において、株式会社アルゴリズム研究所の全株式を取得したため、連結の範囲に含めております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I. 前第1四半期連結累計期間(自 2017年6月1日 至 2017年8月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント						合計
	制御システム	自動車システム	特定情報システム	組込システム	産業・公共システム	ITサービス	
売上高							
外部顧客への売上高	297,851	291,257	119,624	185,826	309,893	184,493	1,388,946
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	297,851	291,257	119,624	185,826	309,893	184,493	1,388,946
セグメント利益	84,127	62,995	31,324	50,095	73,143	23,957	325,645

(単位：千円)

	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
売上高		
外部顧客への売上高	—	1,388,946
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—
計	—	1,388,946
セグメント利益	△190,680	134,964

(注) 1. セグメント利益の調整額△190,680千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△179,886千円及びその他△10,794千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ. 当第1四半期連結累計期間(自2018年6月1日至2018年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント						合計
	制御システム	自動車システム	特定情報システム	組込システム	産業・公共システム	ITサービス	
売上高							
外部顧客への売上高	197,947	377,616	106,564	238,102	350,928	208,263	1,479,422
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	197,947	377,616	106,564	238,102	350,928	208,263	1,479,422
セグメント利益	40,623	86,322	22,405	65,277	87,888	36,511	339,029

(単位：千円)

	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
売上高		
外部顧客への売上高	—	1,479,422
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—
計	—	1,479,422
セグメント利益	△215,837	123,192

(注) 1. セグメント利益の調整額△215,837千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△206,767千円及びその他△9,070千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(重要な負ののれん発生益)

当第1四半期連結会計期間において、株式会社アルゴリズム研究所の全株式を取得し、連結子会社としております。これに伴い、負ののれん発生益30,602千円を計上しておりますが、当該負ののれん発生益は報告セグメントに配分しておりません。